



矢谷博文
(大阪大学大学院歯学研究科)

『顎関節症の病態分類と診断(レクチャー)』

<要旨>

改訂された「顎関節症の概念(2013年)」、「顎関節・咀嚼筋の疾患あるいは障害(2014年)」、「顎関節症と鑑別を要する疾患あるいは障害(2014年)」および「顎関節症の病態分類(2013年)」の内容を説明するとともに、具体的にどのように診察と検査を行い、その所見に基づいてどのように診断を下し、治療方針の立案に結び付けていくかについて、講演者が現在取り組んでいる方法をできるだけわかりやすく説明させていただく予定です。

参加者の皆様の日頃の顎関節症患者への取り組みに少しでも役立てば幸いです。

<講演内容>

- I 顎関節症の病態分類
- II 顎関節症の診断基準
- III 顎関節症の具体的な診断方法

<専門医カリキュラム>

- ・顎関節症の病態を説明できる
- ・顎関節症の発症メカニズムと症候、継発する病態を説明できる
- ・医療面接を実施できる口腔外の診察を実施できる
- ・顎関節症の診断および病態診断ができる

<略歴>

- 1980年 大阪大学歯学部卒業
- 1984年 広島大学大学院歯学研究科単位習得退学
- 1984年 広島大学歯学部附属病院助手
- 1985年 岡山大学歯学部附属病院講師
- 1987年 岡山大学歯学部助教授
- 1996年 文部省在外研究員(米国ケンタッキー大学歯学部 Orofacial Pain Center)
- 2000年 岡山大学歯学部教授
- 2003年 大阪大学大学院歯学研究科教授
- 日本顎関節学会 理事(指導医, 専門医)
- 日本補綴歯科学会 元理事長, 支部長(関西支部)(指導医, 専門医)
- 日本口腔顔面痛学会: 顧問(指導医, 専門医, 認定医)
- 日本接着歯学会 元理事長, 監事(認定医)
- など多数



高木律男

(新潟大学)

『顎関節症と鑑別が必要な疾患(レクチャー)』

<要旨>

顎関節は解剖学的にも機能的にも全身の関節と比較して特殊な関節であるが、そこには頻度は1割程度と少ないものの多岐にわたる疾患が生じる可能性がある。したがって、9割以上が顎関節症であるとは言え、直視できない顎関節に生じる変化を鑑別するには、初診時の診察や画像所見は非常に重要である。講演では、顎関節症以外の顎関節疾患を中心に精査を要する臨床所見、依頼すべき検査、鑑別ポイントなどについて説明する。

<講演内容>

- I 早急な対応が必要となる所見
- II 顎関節症以外の顎関節疾患の特色
- III 鑑別のポイント

<専門医カリキュラム>

- ・顎関節症の診断、治療に必要な診察、検査
(医療面接、口腔外の診察、口腔内の診察、画像検査所見)
- ・顎関節症の診断
(顎関節症以外の顎関節疾患と鑑別できる。)

<略歴>

- 1980年 新潟大学歯学部卒業
- 1981年 新潟大学歯学部(口腔外科学第二講座)
- 1984年 新潟県厚生連・頸南病院 歯科勤務
- 1987年 新潟大学歯学部(口腔外科学第二講座)
- 1990年 学位取得・歯学博士(新大歯博1990)
- 1993年 文部省短期在外研究院(USA: UCLA & Rochester)
- 1998年 新潟大学歯学部 教授

《役職・資格》

- 日本顎関節学会 専門医1999・指導医1999・常任理事2016
- 日本口腔外科学会 専門医1991・指導医1995
- 日本口腔科学会 認定医2016・指導医2016・理事2014
- 日本口蓋裂学会 理事2012
- 新潟大学医歯学総合病院 顎関節治療部部長兼任1998
- 新潟大学医歯学総合病院 副病院長2012



本田和也
(日本大学歯学部)

『顎関節症の画像検査
(ハンズオン:パノラマX線像トレース実習含む)』

<要旨>

顎関節症の診断において、国際機関の international RDC/TMD Consortium が策定した DC/TMD や、日本顎関節学会が発行した「顎関節症病態分類」などがあり、これらの中で初期診断の重要性に加え、画像検査による病態診断が重要視されています。

このパートでは、顎関節の診断に必要なパノラマ・CT・MRI の解剖や禁忌症など、すぐに臨床活用できる画像診断の内容です。MRI の読像等は一部ハンズオンでおこないます。

参加する先生方は、鉛筆と消しゴムをご持参ください。

<講演内容>

- I. 顎関節の正常解剖
- II. パノラマ・CT の基礎知識
- III. MRI の基礎知識
- IV. 代表的な症例の MRI の画像診断
(トレースを含む)

<専門医カリキュラム>

- ・顎口腔系の構造を説明できる
- ・画像検査所見を説明できる
- ・顎関節症の病態を説明できる
- ・顎関節症の症型診断ができる

<略歴>

昭和 62 年 日本大学助手
平成 10 年 ノルウェーのオスロ大学留学
平成 11 年 国際協力事業団(JICA)の専門家
(スリランカ・ペラデニア大学派遣)
平成 17 年 日本大学歯学部講師
平成 19 年 日本大学歯学部教授 (歯科放射線学講座)
平成 23 年 日本大学歯学部附属歯科病院 顎関節症科 科長
平成 25 年 日本大学歯学部附属歯科病院 診断部部长
平成 29 年 日本大学歯学部長

日本歯科放射線学会 専門医, 認定医, 指導医
日本顎関節学会 専門医, 認定医, 指導医
日本外傷歯学会 認定医
日本歯科放射線学会常任理事, 日本顎関節学会常任理事



小見山 道

(日本大学松戸歯学部)

『顎関節症の診察・検査・診断』

(ハンズオン:開口域計測、触診実習を含む)』

<要旨>

今回の講演は、顎関節症の診察・検査から診断の過程を概説する。

診察では、まず疼痛部位について記載するが、医療面接の基本技術は最低限必要となる。検査としてオーバージェット、オーバーバイト、正中偏位、開口パターンを記録する。そして無痛最大開口量、自発最大開口量と運動時痛の場所、強制最大開口量と運動時痛の場所について計測、記録し、さらに前方・側方運動量と運動時痛の場所について計測、記録する。その後、開閉口時の顎関節雑音と誘発痛を記録し、同様に前方・速報運動時の関節雑音と誘発痛、また開閉口時の引っかかりも記録する。最後に、側頭筋、咬筋、顎関節の触診を行い、圧痛、誘発痛、関連痛について診査し、必要に応じて下顎枝後方と下顎下部、外側翼突筋領域と側頭筋腱を触診し、一連の診察・検査を終了する。次いで診察・検査結果をもとに顎関節症の診断を行う。顎関節症治療の一助となれば幸甚である。

<講演内容>

- I 医療面接
- II 口腔内の診察・検査
- III 口腔外の診察・検査

<専門医カリキュラム>

- ・医療面接を実施できる
- ・口腔外の診察を実施できる
- ・口腔内の診察を実施できる

<略歴>

1989年	日本大学松戸歯学部卒業
1990年	日本大学松戸歯学部 総義歯補綴学講座
1998年	日本大学 博士(歯学)
2001年	日本大学助手(松戸歯学部・総合歯科診療学)
2002年	日本大学松戸歯学部講師(松戸歯学部・総合歯科診療学)
2003年~2005年	ベルギー王国ルーベンカトリック大学歯学部 客員教授
2011年~	日本大学松戸歯学部准教授(松戸歯学部・顎口腔機能治療学)
2016年~	日本大学松戸歯学部教授(松戸歯学部・顎口腔機能治療学) 日本大学松戸歯学部附属病院 口・顔・頭の痛み外来 責任者



西山 暁
(東京医科歯科大学)

『顎関節症の各病態に対する保存的治療 (レクチャー)』

<要旨>

顎関節症の治療方針においては、経過観察になる場合と積極的な治療介入を要する場合がある。また、治療介入についてはより専門的な対応を必要とする場合もある。いずれにおいても最初に疾病教育を行うことが重要である。治療介入を行う際には保存的(可逆的)治療からスタートすることが基本となるが、その中心となるのは患者自身によるセルフケア(セルフマネージメント)である。

本講演では、顎関節症治療の基本概念と各病態に対する保存療法について、「顎関節症治療の指針2018」をもとに概説する。

<講演内容>

- I. 顎関節症の治療概念
- II. 疾病教育とは
- III. 痛みに対する治療
- IV. 顎関節内障害に対する治療

<専門医カリキュラム>

- ・各病態に対し、治療・管理目標を設定できる
- ・生活指導、習癖の指導を行える
- ・理学療法を行える
- ・オクルーザルアプライアンス療法を行える

<略歴>

- 1995年 東京医科歯科大学 歯学部卒業
1999年 東京医科歯科大学 歯学部大学院修了 歯学博士号取得
2000年 東京医科歯科大学 摂食機能構築学分野医員
2002年 東京医科歯科大学 大学院摂食機能構築学分野助手
2004年 東京医科歯科大学 大学院部分床義歯補綴学分野助手
2007年 東京医科歯科大学 顎関節治療部 助教
2016年 東京医科歯科大学大学院 口腔顔面痛制御学分野 講師
東京医科歯科大学 歯学部附属病院 顎関節治療部 診療科長